



ねお展

清流の国ぎふ



『根尾はアジュールだった』

本巣市最北の能郷白山・屏風山・左門岳一帯を源流域とする根尾川に沿った中山間部が根尾地区。雄大な自然に囲まれた根尾には31の集落があり、今も1231人が暮らしています。

明治の濃尾地震、昭和の伊勢湾台風と大災害が続いたあと、多くの人たちが山を降りました。平成には、林業衰退や市町村合併で人々は町へと移り住み、少子高齢化により地域の限界集落化が一層すすんでいます。

私たちが根尾に通い始めたのは2015年。それは、こういった地域の問題を解決しようと考えたからではありませんでした。そうではなく、1500年以上も脈々と続いている根尾という地域に、何か不思議な魅力を感じたからでした。

福井との県境に位置する根尾は、かつて日本海側の鯖や薬の行商人たちが行き交う道でした。能郷白山を拝む白山信仰の山伏たちにとっては聖地でした。福井から流れてきた人たちが山間に住みつき、集落を作り、清流や森の豊かな恵みの恩恵を受けながら、木地師や炭焼き職人として生計をたてていました。また、その時々政に破れ追われた人にとって山は隠れ里となりました。僻地ゆえ、事あるごとに賭場が開かれていた集落もありました。

集落の発展は精神的な場も創造していきました。集落が大きくなると、各家の神様を持ち寄って集落の神社とし、季節ごとに豊穰祈願の祭りを行っています。能郷地区の氏子による能狂言は白山神社の祭礼として400年以上も受け継がれ、毎年4月13日に能郷白山神社に奉納されます。

旧暦正月には、その年の豊作を占う樽見の十一日祭りも行われています。神社の拝殿で掛け歌に合わせて踊る独特な根尾盆おどりも健在です。限界集落となり神事の継続は難しくなっていますが、今も続けられていることはすごいことかもしれません。

山奥の清流から水を引き、各家に分配する仕組みは各集落で作っており、水道が通った今でもそれを使い続けています。新しいビジネスを模索し続ける90代のおじいさんや、嫁入り道具の工業用ミシンで自分の服を縫う80代のおばあさん。必要なものは自分で考え自分で作る。根尾の人たちにとって、これは当たり前のことです。

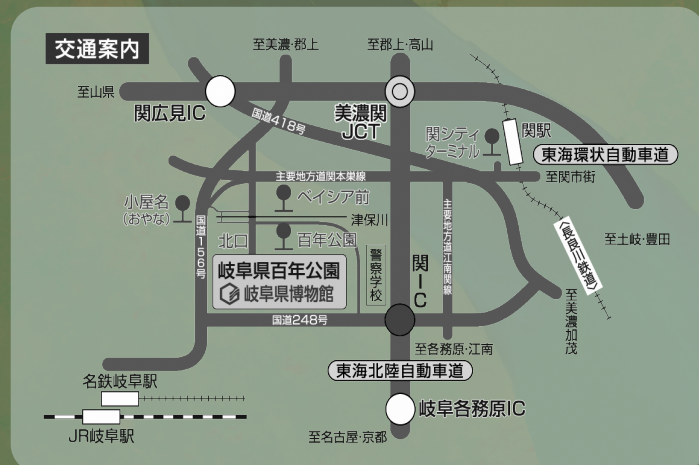
住民がいなくなった集落でも、春・夏・秋と元住民たちが集まり、集落の神様に祈りを捧げ、共に食事を楽しみます。自然の中で生き抜く精神を祖先から受け継ぎ、自分たちなりにここでの暮らしを守り、変え、創り、そして、楽しんでいきます。

今では、自然の中で創造的な生活を求める若い人たちが移り住むようになり、干渉の少ない土地で生きることを求める家族も新天地を求めてやってきます。一度集落を離れた人々にとっても、人生の何かの転機に再起できるやさしい故郷でもあります。

アジュールとは、聖域、避難所、無縁所、あるいは、自由な領域といわれています。私たちが感じた根尾の不思議な魅力は、アジュールとしての根尾だったのかもしれません。アジュールだからこそ、大きな変化に耐え、小さな革新を繰り返しながら、どの時代においても自分たちの領域として存在し続けてきたのではないのでしょうか。

(IAMAS Community Resilience Research)

岐阜県博物館 〒501-3914 岐阜県関市小屋名1989(岐阜県百年公園内)
TEL:0575-28-3111(代) <http://www.gifu-kenpaku.jp/>



休館日 毎週月曜日(但し、10月10日(月・祝)は開館、10月11日(火)は閉館)
年末年始(12月29日～1月3日)
入館料 無料(ただし、博物館本館の展示を観覧される場合には、所定の入館料が必要です)
時 間 9:00～16:30(入館は16:00まで)

- 東海北陸自動車道 関インターから車で5分
・百年公園北口駐車場(無料)をご利用ください。
- 岐阜バス(小屋名バス停下車 徒歩20分)
・岐阜駅方面からは、岐阜バスターミナル又はJR岐阜駅14番乗り場でご乗車ください。(岐阜関線、岐阜美濃線)
・関駅からは、関駅西側の関シティターミナルバス停からご乗車ください。(岐阜関線)
- 関シティバス(百年公園バス停下車 300m)
・関駅からは、関駅西側の関シティターミナルバス停からご乗車ください。(わかくさ・小金田線、わかくさ・千正線)

IAMAS



よだか総研
Yodakas Research Institute